

医療のグローバル・ミニマムを探って ～神戸から発信する災害医療・ コロナ感染症対策・医療産業都市構想～

Exploring the Global Minimum for Healthcare: Disaster Medicine, Covid-19 Measures and Kobe Biomedical Innovation Cluster (KBIC)

日時: 11月30日(土) 午前 9:00-11:00

主催: 神戸大学 社会システムイノベーションセンター

後援: 神戸大学 デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク推進機構

趣旨: 医療のグローバル化時代、高額な医療技術・医薬品の国境を越えた流通が進む半面、医療の進歩の恩恵から疎外された市民や困窮地域もまた存在する。医療の在り方をめぐる各国の法制度は自由診療・民間保険制度を基盤とするレッセフェール型から医療の機会均等を旨とする国民皆保険型の法制度まで多様であるが、グローバル化に伴う収斂も促されている。その収斂はどこへ向かうのか。国民皆保険制度を維持する日本の医療現場において、すべての患者に等質な医療を提供し続ける地域中核医療の役割を担う神戸大学医学部の医師の視点から、また医薬産業のグローバル生産拠点をしして名乗りを上げた神戸市の医療産業都市構想を踏まえ、グローバルな医療の機会均等を視野に置く、法制度のグローバル・ミニマムを問う。

報告1 高橋裕 (神戸大学法学研究科教授)

「法学と医学の研究連携の地平」

報告2 大路剛 (神戸大学医学部附属病院・都市安全研究センター准教授)

「医療現場から求める法学への期待」

報告3 西川尚斗 (神戸市企画調整局 局長(医療産業担当))

「神戸医療産業都市の25年の取組及び将来像」

報告4 季衛東 (上海交通大学日本研究院 院長)

「上海における医学・法学の研究連携と医療産業都市構想」

日英
同時通訳
あり

**会場: 神戸大学六甲台第1キャンパス
フロンティア館3階プレゼンテーション・ホール**